

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2020年10月15日

今月のトピックス 「偽メールにはくれぐれもご用心」

今回はミクロ的な話で恐縮だがあまりにも「偽メール」が精巧すぎることから、注意喚起を促す意味で「特殊詐欺」関連について述べてみたい。偽メールに関しては恥ずかしながら筆者も騙されかねない状況だったことを付け加えておこう。

やや不謹慎になるがコロナ禍では、給付金詐欺や押し込み強盗など特殊詐欺（一括りにするのはやや強引だがお許しを）まがいのことが頻繁に起きている気がしてならない。特殊詐欺はこれまでも発生していたのだが、新型コロナで緊急事態宣言の発令&解除が行われた以降急増しているのは気のせいだろうか。1つ言えるのは家計が保有する現金・預金が急増していることもその要因と思われる。日本銀行が四半期ごとに公表する「資金循環統計」によれば、2020年6月末現在で家計が保有する現金・預金は速報値ベースで1031兆円もある。過去最高額を更新しているうえ、対前年比ベースでは現行のような統計にした2005年以来最も増加率、残高が高くなっているのだ。10万円の特別定額給付金が支給されたことが急増の要因のようだが、そのお金を手元に置くいわゆる「タンス預金」としている割合の伸び率は預金額のそれより高いのである。金利が低いとはいえ、多発する押し込み強盗などを考えれば手元に置くよりは銀行に預け入れておいた方がよいのは言うまでもない。新型コロナで外出を控えたい気持ちを考えれば、現金を多めに手元に置きたい気持ちも理解できるものの、命の次に大切なお金なのだから安全なところに置いておく（預けておく）べきだろう。

一方、筆者も騙されそうになった「偽メール」だが、メールの差出人が実存する銀行の正式名称を騙るだけでなく、コールセンターへの問い合わせ先は実在する（正式な）番号である。さらに「Eメールアドレスの変更方法」、「個人情報保護について」などもご丁寧に記載されているのである。偽メールに記載されていた文章は『お客様の【三菱UFJ銀行の口座】が第三者に利用される恐れがあります。本人使用じゃない場合、迅速にデバイスロックを実施して、セキュリティ強化、カード・通帳一時利用停止、再開のお手続きを設定してください。』とあり、偽のアドレスが記載されているのだ。1度目を無視したのだが、2度目も同じメールが届いたうえ、インターネットバンキングを使用しているので気になり銀行の正式なHPにログインすると、デバイスロック云々以下に書かれているメニューがどこにも存在しないのである。そこでコールセンターに問い合わせると同様の問い合わせが相次いでいるようで、取引などを行わない限り決して銀行からメールを送ることはないと言われた次第である。実在する他の銀行、カード会社名などを騙る偽メールが皆様にも届いている可能性が高いはず。偽メールに記載されているアドレスを決してクリックすることなく、調べるなら正式なHP経由、あるいはコールセンター等で確認していただきたい。偽メール、いわゆるフィッシング詐欺のメールはこれを読まれた皆さんのところにも届いているはず！他人事とは思わないことである。騙し取られたお金は金融機関側に落ち度がなければ戻ることにはないと肝に銘じるべきである。